

# 国語科学習指導案

指導者 広島県立広島南特別支援学校 教諭 爲口実鶴

- 1 研修テーマ 児童の「読めた。」「分かった。」につながる指導の工夫
- 2 日 時 令和5年12月5日(火) 第2校時 9:45~10:30
- 3 学 年 第1・2学年1組(2年) 男子1名 計1名
- 4 単元名 読んで考えたことを話そう「どうぶつ園のじゅうい」(光村図書 こくご二上 たんぽぽ)

## 5 単元について

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示) 国語第1学年及び第2学年の〔思考力・判断力・表現力等〕「C 読むこと」(1)の指導事項「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」力を育成するには、文章の内容を、自分が既に持っている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりして、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

教材文では、動物という児童にとって興味・関心が高い生き物が扱われているため、興味深く文章を読み進めることが予想される。段落の始まりには、時間帯が示され、時間に沿って一日の流れが書かれているため、時間の順序を捉えやすい。段落ごとに、仕事が書かれており、「からです」「だから」などの言葉から、仕事の理由を読み取りやすい。書かれている動物や仕事の様子は、病院受診の経験やお風呂に入ること、日記を書くことなど、イメージを持ちやすい内容となっているため、自らの経験や習慣と結び付けやすく感想がもちやすいと考える。

これらのことから、本単元でのねらいを達成し、児童が文章の内容と既存の知識や経験と結び付けて解釈し、理解を深める力を身に付けるのに適している教材である。

### (2) 児童観

本学級は単一障害学級で、第2学年については1名が在籍しており、本校には幼稚部から通ってきている。主なコミュニケーション手段は手話であり、音声や指文字を併用しながら、コミュニケーションを取っている。自分の生活(睡眠時間)や家族構成、生き物等への興味・関心が高く、会話の話題の中心になることが多い。文字を読むことや文字を書くことを通した学習においては意欲的に行う様子は少ないが、話す活動には意欲的に学習に取り組むことができるようになってきている。書く学習や文章を読むことへの抵抗感は強いが、教材や課題の調整をすることで、学習に継続して取り組む姿も多く見られるようになってきた。教材文を読み進める際には、指文字で一字一字読むことが大半であり、一読して内容を捉えることは難しい。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」ことについては、文章に自分の生活(睡眠時間)や家族構成、生き物等、自分が興味をもっている内容が書かれていると、実体験を意欲的に話す姿が見られるが、そこから文章の内容に対する思いをもたせるためには、会話など、教師とのやりとりを通して引き出していく必要がある。

### (3) 指導観

指導に当たっては、本単元全体を通して、事柄や時間の順序を読み取る活動、自分の体験と文章の内容を結び付ける活動に重点を置いて進めていく。また、単元を通して意欲を失うことなく活動が進められるよう、以下の点に留意しながら指導を行う。

○一枚のプリントに、部分的にルビを振った本文を段落ごとに載せ、段落の始まりと終わりを分かりやすくし、ある程度長い文章を読むことへの抵抗感が少なくなるようにする。自分の体験と文章の内容を結び付ける活動の際に、自分の体験と似ている文章の記述に線が引きやすく、また引

いた後に、見やすくなるように、行間を広くしておく。

○「考えの形成」の学習の流れ

段落ごとにまとめた内容を教室に掲示しておくことやワークシートの工夫により、整理する内容（いつ、筆者の仕事）が分かりやすく伝わるようにする。本文を掲載したプリントを用いて自分の体験と似ている内容に線を引く。また、考えたことや気付いたことを話す活動の際には、思考を整理しやすくするために、1つずつ質問事項を提示する。教室内に掲示した単元を通した学習の流れを確認することで、自分の感想を言葉で説明して伝えようとする思いを引き出すようにする。

6 単元の目標

○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ア

○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。


[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

7 単元の評価規準

本文を読み、教師との会話を通して自分の思ったことを教師に話す活動を通した指導 【言語活動例 C (2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	・ 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア)  ・ 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (C (1) オ)	・ 進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、学習課題に沿って分かったことや感想を教師に伝えようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て
<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>思考・判断・表現</p>	<p>①じゅういさんは、毎日、どうぶつ園で、かならずおふろに入ります。</p> <p>②ぼくも、毎日、家でおふろに入っています。</p> <p>③ぼくもじゅういさんも、毎日おふろに入っているのは同じだと思います。ぼくは、体をあらってきれいになったり、気持ちよくなったりするために、おふろに入っています。だけど、じゅういさんは、人間のびょうきのもとになるものをどうぶつ園の外にもち出さないために、おふろで体をあらわないといけないみたいです。</p> <p>④じゅういさんは、まわりの人がびょうきになるのをふせぐために、体をあらっているということが分かりました。どうぶつ園のじゅういさんは、どうぶつをちりょうするおしごとだと思っていたけど、びょうきを広めないようにすることにも気をつけていて、しごとがたくさんあってたいへんなんだなと思いました。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材文を掲載したプリントや「じゅういさんおしごとばっちりシート」（ワークシート）を掲示しておき、対話を通して体験を引き出すようにする。</li> <li>●問いを順番に提示することで、問われている内容を理解しやすくしたり、段階的に考えやすくしたりする。</li> </ul>

8 指導と評価の計画（全13時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1 ・ 2	○教科書の題名やイラストを見て、教材文の内容を予想する。 ○単元の活動を確認し、見通しをもつ。				
	3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	○本文の段落ごとに書かれている内容を理解する。 ○ワークシートに段落ごとに書かれている内容（いつ、動物の名前、筆者の仕事）をまとめる。		○		[思考・判断・表現] <u>児童の発言・ワークシート</u> ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。
二	8 ・ 9 ・ 10 (本時) ・ 11	○各段落を読んで、筆者の仕事の理由や工夫についてまとめる。 ○自分の体験と似ている内容について発表する。	○			[知識・技能] <u>児童の発言・ワークシート</u> ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
三	12 ・ 13	○教材文を読んで、考えたことや気付いたことを話す。		○	○	[思考・判断・表現] <u>児童の発言</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。  [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・進んで、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って分かったことや感想を教師に伝えようとしている。

9 本時の学習 (10/13 時)

(1) 本時の目標

4段落、5段落に示されている獣医の仕事について、共通点や相違点を見いだすことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 前時の学習を振り返る。 ・音読 ・内容の振り返り  2. 本時のめあてを確認する。  3. 4段落、5段落のしごとのわけ、くふうを考える。  4. 本時を振り返り、ワークシートにまとめる。	○手話や指文字を用いて、はっきりとした音声での音読を促し、正しく読みや意味が理解できているか確認する。 ○3段落の内容について、本文やワークシート（どうぶつ園のじゅういさん おしごとばっちりシート）を用いて、確認するよう促す。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">しごとをした わけやくふうについてまとめよう。</div> ○「どうぶつ園のじゅういさん おしごとばっちりシート」を提示し、何についてまとめるのか、最初に確認する。 □獣医さんが、いろいろなお仕事をしているのは、どうしてかな？ ・動物がたくさんいるから。 ・病気やケガをしているから。  □獣医さんは、お仕事をする時、どんなことに気を付けているのだろうか？ ◆「わけ」や「くふう」について言葉の理解が難しい場合、児童の実体験をもとにした出来事に関する話をし、その中で理由や工夫に関する質問を行う。また、「わけ」が書かれた文末表現（～から、～なので）に注目できるように板書に視覚的に示す。 ◆本文の内容を十分に理解できていない様子が見られた際は、本文の内容をイラストや写真で表した図を提示し、対話を通して考えを引き出す。  ○ワークシートに書く前に、書く内容を手話を用いて教師に話して伝えるよう促し、文章の内容や意味が理解できているか確認する。	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (発言・ワークシート)

(3) 板書計画

	わけ	いつ	名前	どうぶつ園のじゅういさん おしごとばっちりシート	めあて	どうぶつ園のじゅうい うえだみや
_____	くふう	仕事				

10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

- 単元を通した学習の流れをホワイトボードに示し、常時教室内に設置しておくことで、いつでも確認することができるようにした。また、段落ごとにまとめた内容を教室に掲示しておくことで、授業の際の振り返りや本時の学習への見通し、また、整理する内容（いつ、筆者の仕事）が分かりやすく伝わるようにした。
- 教師とのやり取りを通して、問いに対して児童が発言した内容を教師がワークシートを拡大した模造紙に必要事項を記入するという学習の流れを設定することで、活動に見通しをもちやすくするとともに、ワークシートへの記入内容を明確にした。

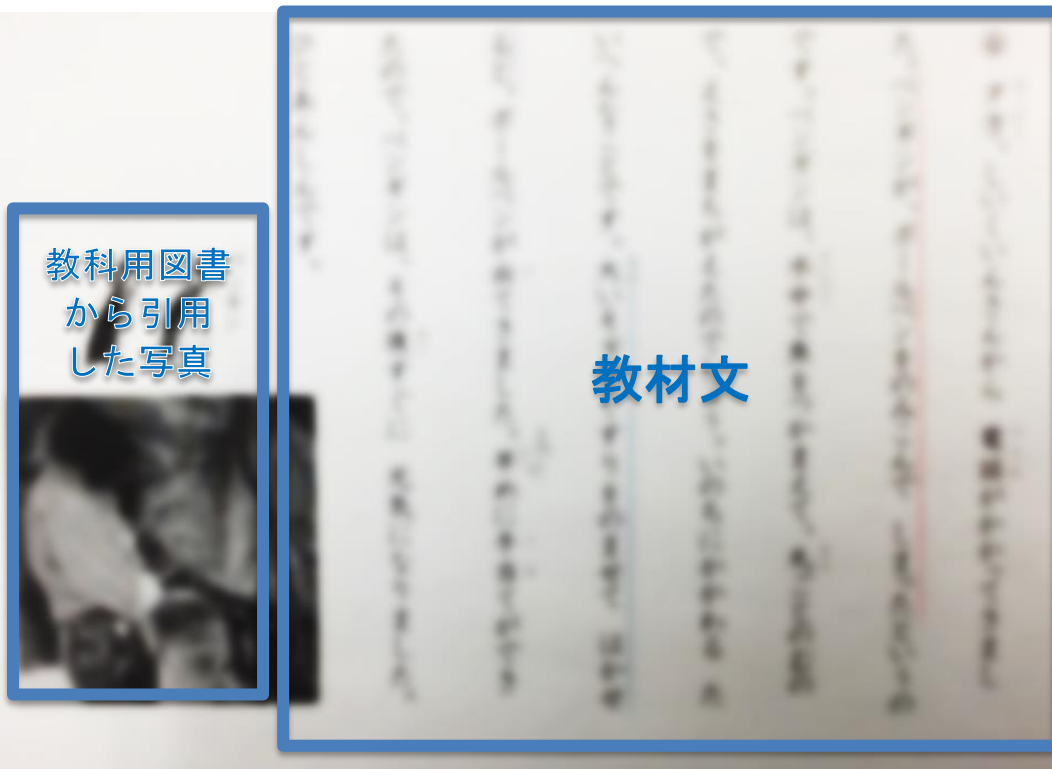
びょうきになったとき、すぐに気づくことができるから。顔を覚えてなれてもらうという大切なりゆうもある。	わけ	朝	いつ
			どうぶつ
「おはよう。」と言いながら、家の中へ入る。	くふう	どうぶつ園の中を見回ること	
		ひつしゃのしごと	

どうぶつ園のじゅういさん  
おしごと ばっちりシート



※児童が書いたものを指導者が打ち直した。

- 一枚のプリントに、部分的にルビを振った本文を段落ごとに載せ、始まりと終わりを分かりやすくし、読むことへの抵抗に配慮し、活動に臨むことができるようにした。



## (2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

- ・「工夫」や「わけ」という言葉の意味理解が不十分であることから、仕事の工夫やその理由を見付けることが難しい場面が多かった。段落ごとの内容を簡単なイラストで視覚的に提示することで、さるやペンギンに対する仕事の工夫について、読み取ったことを述べることができた。
- ・本文を読み進める際に、主語は誰なのかを把握することが難しかったことから、筆者（獣医）と飼育員と動物のイラストを用い、その都度主語の確認を行った。

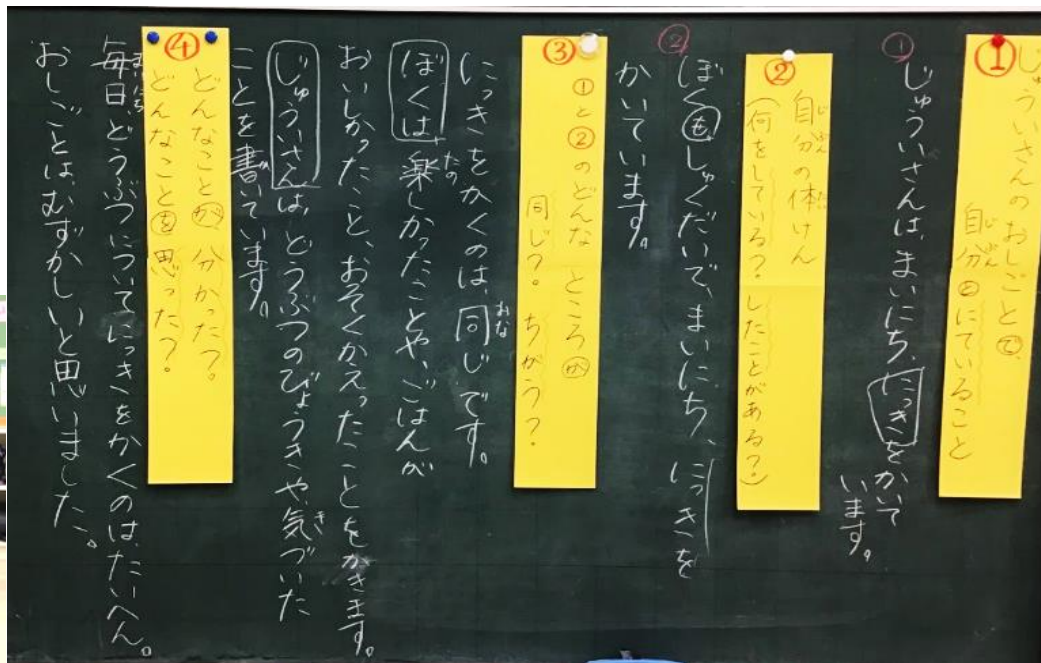
## 11 評価の実際

### (1) 評価の具体

- ・獣医の仕事と自分の経験とを結び付けて文章の内容に対する感想を書くことができたら「おおむね満足できる」状況（B）とした。

自分の考えを書いて表現することに課題がある実態から、質問事項を箇条書きにし、一つずつ提示することで、その都度、自分の考えを話し言葉で伝えるよう促した。その内容を教師が対話を通して補い、板書した。

- ① じゅういさんのおしごとで自分とにていること
- ② 自分の体けん（何をしている？したことがある？）
- ③ ①と②のどんなところが同じ？ちがう？
- ④ どんなことが分かった？どんなことを思った？
- ⑤ ④までで出た意見を対話を通して掘り下げていく中で、文章全体への感想につながるような問いを行った。



### (2) 児童の評価

（実際の様子）文章の内容や既存の知識や経験については、教師の声掛けがなくても、提示した問いを読んで答えることができていた。③と④の問いに関しては、教師が手話で読み上げ、「何が同じかな？」「ちがうところはあるかな？」と聞いた。自分と獣医さんの「どんなところ」や「していること」を言う際には、「〇〇さんは、日記でどんなことを書いているの？」や「獣医さんは、何を書いているのかな？」などと問いかけながら児童の発言を促し、整理しながら板書した。

④の問いでは、教師が問いを手話で読み上げたところ、それに対する答えが出なかったため、①～③を再度読み上げ、「日記」を書くこと自体について、どう思うかを問うと「大変。」と答え、「お仕事」についてどう思うかを問うと、「むずかしい。」と答えていた。対話を通して「どうしてむずかしいの。」と問うと、「無理。（注：分からないの意）」「お父さん、仕事、忙しい。」と答えた。「仕事って難しいし、忙しいね。お父さん、忙しいけどお仕事がんばっているね。」「獣医さんも忙しいのかな？どうしてお仕事がんばっているんだろうね？」などと問いかけてみたが児童の思いは出なかった。

【評価】文章の内容や体験は伝えられたが、①と②を結び付けて解釈につなげることや、理解を深めて文章の内容に対する思いの表現について③から④の繋がりを言うことができなかつたことから、「努力を要する」状況（C）とした。

## 12 成果と課題

### (1) 成果

- ・これまで、書く活動に取り組む際には、何を書けばよいのか、どこに書けば良いのか分からないと訴え、写し書きすることにも抵抗感があったが、板書と対応したワークシートを用いることで、スムーズに書く活動に取り組むことができた。
- ・これまでの学習では教科書に書かれた内容に関する問いをすると、基本的に「分からない。」と答えることが多かったが、本単元では、本文を読み返して、答えを探そうとする様子が多く見られた。
- ・質問事項を箇条書きにし、一つずつ提示したことで、思考が整理され、文章の内容と自分の体験とを結び付けて対話を通してながら答えることができた。

### (2) 課題・今後に向けて

- ・今後、考えや感想等を書いて表現する際に、自らの表現で書くことができるよう国語や自立活動等の学習で語彙の拡充や書字の学習に継続的に取り組む必要がある。
- ・書く活動の際には、ワークシートや表を用い、文の書き出しや文末を示すことで取りかかりへのハードルを下げる。
- ・教室に関連する本を置いてはいたものの、勧めても自ら読み始める姿がほとんど見られなかった。児童が自然に興味・関心をもてるよう、イラストが大きく載っていたり、文章量が多くなかったりといった本を選別して設置する、紹介文で目を惹くという工夫をする。また、設置する場所は、学習の妨げにならないような角度や場所にする。
- ・文章の内容に対する思いや感想をもつことができるようにするために、次の点に関して指導を続ける。
  - ①教科書の本文内で、初めて知ったこと、気になったことや心が動いたことなど、線を引いてチェックしたり、発表したりする活動を学習に取り入れる。
  - ②日々の授業の中で、文章を読んだ後のまとめや振り返りの中で、自分の思ったことや感じたこと、感想などを表現する機会を意図的に設け、自分の心情を伝える経験を積むようにする。
  - ③思いや気持ちを表す語彙を増すため、自立活動の時間や学校での生活場面全般を通して、様々な表現に触れさせ、使えるように計画的に指導する。

## 付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
きかんしゃトーマスととけいであそぼう トーマスくんいまなんじ？	クリストファー・オードリー	ポプラ社
どうぶつ園のじゅうい 赤ちゃんをまもる しごと	上田美弥	金の星社
どうぶつ園のじゅうい ぜつめつからすくう しごと	上田美弥	金の星社
どうぶつ園のじゅうい びょうきやけがをなおす しごと	上田美弥	金の星社